



2023 年致理科技大學全國高中職日語演講比賽 暨日本加計學園日本語演講大會台灣預賽

【報名簡章】

一、宗旨

本校應用日語系多年來致力於日語教學，為提升學生學習興趣，熟悉日語及親近日本文化，與日本姊妹校加計學園共同辦理本演講比賽，提供高中、高職、五專生一個發表學習日語成果的園地。

本競賽亦為日本加計學園日本語演講大會台灣預賽，榮獲本賽前三名者可獲得本校及加計學園獎助學金，第一名者將獲推薦參加 2023 年 11 月 22 日（星期三）線上舉辦之「第 13 回加計學園杯日本語弁論国際大会」。

二、相關單位

主辦單位：台灣 致理科技大學

協辦單位：日本 學校法人加計學園

感謝單位：公益財團法人日本台灣交流協會台北事務所

三、講題

日：最先端技術はどのように使われるべきか。

中：最尖端的技术應如何被使用呢？

詳細參見簡章後【附件】

四、參賽資格

須符合以下所有條件者方可報名：

- (一) 全國公私立高中職在校學生（含五專一年級至三年級）。
- (二) 逾學齡後未曾在日本居住或求學時間達一年(含)以上或未在日僑學校就讀一年(含)以上者。
- (三) 須為中華民國國籍，目前居住臺灣且父母或任一方不為日語母語者。
- (四) 榮獲本競賽第一名者將參加 2023 年 11 月 22 日（星期三）日本舉辦之線上「第 13 回加計学園杯日本語弁論国際大会」。

五、報名方式

- (一) 由學校或科系為單位統一報名或可個人報加參加。
線上報名網址：<https://forms.gle/BeQBesNEAkQQ69FB7>
- (二) 報名期間：即日起至 **2023 年 9 月 22 日（星期五）17:00** 止。
- (三) 報名完成者，將由主辦單位進行競賽資格審核。審核通過者，將由主辦單位以 e-mail 通知後續報名手續。報名成功之參賽者，須於 **2023 年 9 月 29 日（星期五）17:00** 前繳交講稿文字檔，以完成參賽手續。

六、報名人數

15 名，額滿為止。

七、比賽時程

報名截止：2023 年 9 月 22 日（星期五）17:00

講稿繳交截止：2023 年 9 月 29 日（星期五）17:00

比賽時間：2023 年 10 月 13 日（星期五）9:00~12:30

第 13 回加計学園杯日本語弁論国際大会時間：2023 年 11 月 22 日（星期三）

八、比賽地點

線上視訊方式舉辦，網址另行通知。

九、比賽辦法

- (一) 自行撰寫日語講稿。演講時間以 5 分鐘為限，不足 4 分 30 秒或超過 5 分 30 秒者將予扣分。
- (二) 默記講稿為佳。只讀稿而未與觀眾眼神交流者將予扣分。
- (三) 不得使用海報紙張、圓扇、旗幟等道具小物。違者將予扣分。
- (四) 本次競賽採線上方式進行，演講時須開啟鏡頭，臉部及手部完整入鏡，映照出上半身。比賽中不可使用任何錄音、錄影器材，亦不開放攝影，違反規定者視同棄權。

十、評分方式

- (一) 滿分 50 分，演講內容 30 分、表達能力 10 分、發音及抑揚頓挫 5 分、文法 5 分。
- (二) 如有同分，將以「演講內容」，次以「表達能力」，再以「發音及抑揚頓挫」之得分高低決定名次。

十一、獎勵

第一名 獎金 2,000 元及獎狀一只

日本加計學園獎助學金 30,000 日圓*及表彰狀一只

11 月 24 日「第 13 回加計學園杯日本語弁論国際大会」參賽權

第二名 獎金 1,500 元及獎狀一只

日本加計學園獎助學金 20,000 日圓*及表彰狀一只

第三名 獎金 1,000 元及獎狀一只

日本加計學園獎助學金 10,000 日圓*及表彰狀一只

*日幣將以當日匯率換算為台幣金額

參加獎 每人獲得本校頒發之參賽證明及日本加計學園頒發之表彰狀一只

十二、注意事項

- (一) 參賽者的報名資格如有爭議，將由主辦單位全權評定。
- (二) 主辦單位保留修改活動之權利，任何變動將於官網另行公布。
- (三) 本競賽辦法如有不足或爭議之處，主辦單位保留解釋與刪修權利。
- (四) 敬請參賽學校比賽當日惠予參賽學生及帶隊師長或教職員生公差假。
- (五) 為鼓勵學生踴躍參加，參賽者均製頒參賽證明，主辦單位亦製發感謝狀予參賽隊伍指導老師。

十三、聯絡方式

如有任何疑問，請洽應用日語系系辦公室

E-mail：mb100@mail.chihlee.edu.tw

電話：02-2257-6167 轉 2353

應用日語系首頁：<https://jp100.chihlee.edu.tw/>

競賽資訊連結：<https://reurl.cc/RzYAqr>

【附件：講題日文版】

(中文版請見下頁)

テーマ「最先端技術はどのように使われるべきか」

世界では、これまでなかった新次元の扉を開く技術が次々と生み出されています。そして、それらの最先端技術はここ数年で急速に広がり、現在、我々のすぐ側にあります。店員のいないコンビニエンスストア、自動で運転する車、AIが質問に答えたりする技術など、日常的に目や耳にするようになりました。

ただ、これらの技術を使うのは私たち人間です。最先端技術の価値は、人間に寄与し、サポートすることであり、人に取って代わるものではありません。どのように使えば私たちに利益をもたらし、安全に幸福で楽しく暮らすために役立つことができるでしょうか。本年度のテーマは、このような思いをもって、「最先端技術はどのように使われるべきか」と致しました。皆さんの弁論に期待します。

【附件：講題中文版】

講題

「最尖端的技術應如何被使用呢？」

在世界上，打開前所未有的新次元之門的技術正一個接一個地被創造出來。這些尖端技術在過去幾年迅速傳播，現在就在我們周邊。沒有店員的便利店、自動駕駛汽車和人工智能回答問題的技術已經變得司空見慣。

然而，使用這些技術的是我們人類。最尖端技術的價值在於服務和支援人類，而不是取代人類。我們如何利用它來發揮我們的優勢，幫助我們安全、快樂、幸福地生活？今年的主題是“最尖端的技術應如何被使用呢？”期待大家的論述。